

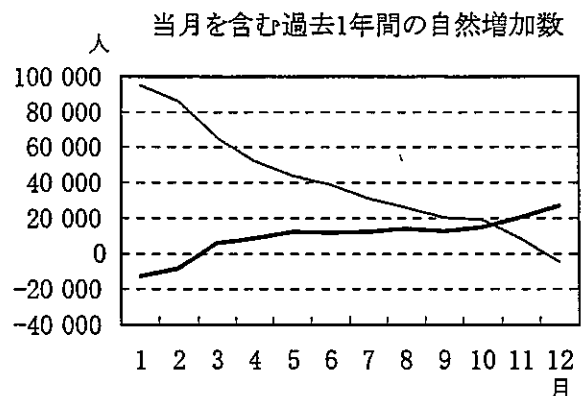
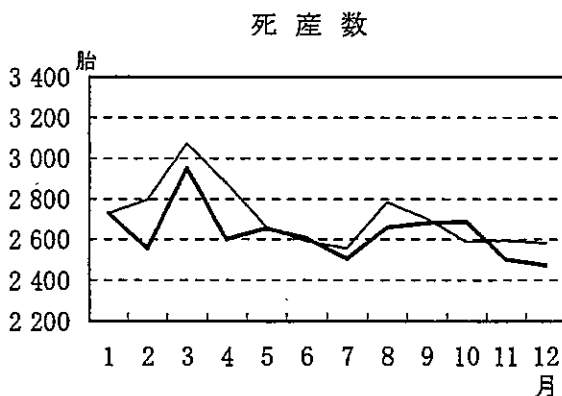
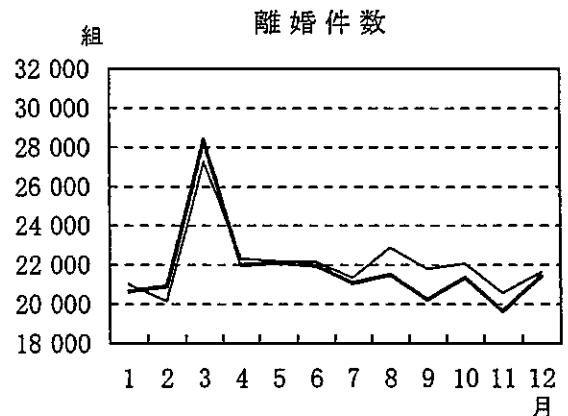
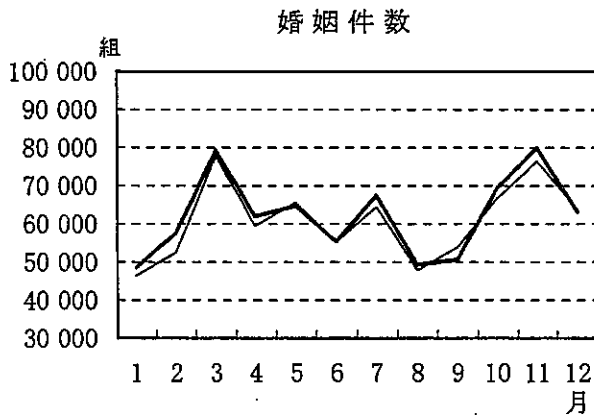
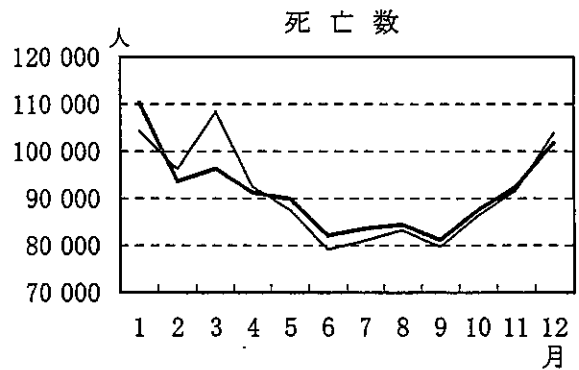
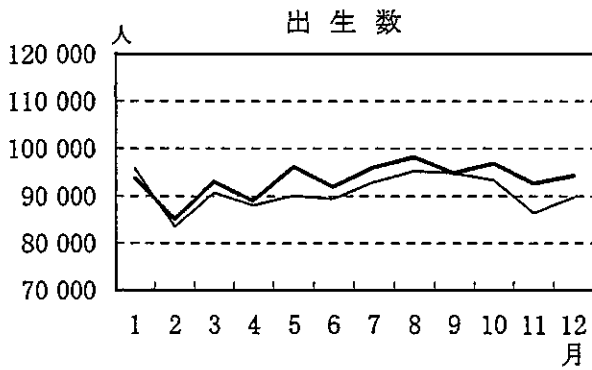
# 人口動態統計速報

## (平成18年12月分)

人口動態統計は、出生、死亡、婚姻、離婚及び死産について、各種届出書等から人口動態調査票が市区町村で作成され、これを収集し集計したものである。

速報の数値は調査票の作成枚数であり、日本における日本人、日本における外国人、外国における日本人及び前年以前に発生した事象を含むものである。

そのうち、日本における日本人についてまとめたものが人口動態統計月報(概数)であり、この月報(概数)に若干の修正を加えたものが年報確定数である。



※H18年1月…H17年2月～H18年1月までの1年間  
 H18年2月…H17年3月～H18年2月までの1年間

H18年12月…H18年1月～H18年12月までの1年間

(担当)  
 厚生労働省大臣官房統計情報部  
 人口動態・保健統計課 月報調整係  
 (TEL)03(5253)1111(内線 7476)

— 平成18年  
 - - - 平成17年

## 人口動態総覧、対前年比較

	実 数				年 換 算 率		
	平成18年	平成17年	差引増減	増減率(%)	平成18年	平成17年	対前年比
	12月						
出生	94 302	89 705	4 597	5.1	8.7	8.3	105.1
死亡	101 849	103 878	△ 2 029	△ 2.0	9.4	9.6	98.0
自然増加	△ 7 547	△ 14 173	6 626	…	△ 0.7	△ 1.3	…
死産	2 474	2 582	△ 108	△ 4.2	25.6	28.0	91.4
婚姻	63 174	63 931	△ 757	△ 1.2	5.8	5.9	98.8
離婚	21 403	21 616	△ 213	△ 1.0	1.97	1.99	99.0
	1月から当月までの累計(18年1月～18年12月)						
出生	1 122 278	1 090 237	32 041	2.9	8.8	8.5	102.9
死亡	1 095 393	1 094 598	795	0.1	8.6	8.6	100.0
自然増加	26 885	△ 4 361	31 246	…	0.2	△ 0.0	…
死産	31 612	32 534	△ 922	△ 2.8	27.4	29.0	94.5
婚姻	748 017	730 167	17 850	2.4	5.9	5.7	102.4
離婚	261 351	265 480	△ 4 129	△ 1.6	2.05	2.08	98.4
	当月を含む過去1年間(18年1月～18年12月)						
出生	1 122 278	1090 237	32 041	2.9	8.8	8.5	102.8
死亡	1 095 393	1094 598	795	0.1	8.6	8.6	99.9
自然増加	26 885	△ 4 361	31 246	…	0.2	△ 0.0	…
死産	31 612	32 534	△ 922	△ 2.8	27.4	29.0	94.5
婚姻	748 017	730 167	17 850	2.4	5.9	5.7	102.3
離婚	261 351	265 480	△ 4 129	△ 1.6	2.04	2.08	98.3

注：前年の数値も速報値である。自然増加は、出生から死亡を減じたものである。

率計算には「人口推計月報」(総務省統計局)により、該当月の総人口(概算値)を用いた。

### 年換算率の計算式

$$\text{当月分 出生・死亡・婚姻・離婚率} = \frac{\text{その月の件数(出生・死亡・婚姻・離婚)}}{\text{その月の人口} \times \frac{\text{その月の日数}}{\text{年間日数}}} \times 1,000$$

$$\text{自然増加率} = \frac{\text{その月の出生数} - \text{その月の死亡数}}{\text{その月の人口} \times \frac{\text{その月の日数}}{\text{年間日数}}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{その月の死産数}}{\text{その月の出産(出生+死産)数}} \times 1,000$$

$$\text{1月分からの累計 出生・死亡・婚姻・離婚率} = \frac{\sum_i (\text{i月の件数(出生・死亡・婚姻・離婚)})}{\sum_i (\text{i月の人口} \times \frac{\text{i月の日数}}{\text{年間日数}})} \times 1,000$$

$$\text{自然増加率} = \frac{\sum_i (\text{i月の出生数}) - \sum_i (\text{i月の死亡数})}{\sum_i (\text{i月の人口} \times \frac{\text{i月の日数}}{\text{年間日数}})} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\sum_i (\text{i月の死産数})}{\sum_i (\text{i月の出産(出生+死産)数})} \times 1,000$$

注： $\sum_i$  は1月からその月までの累計である。

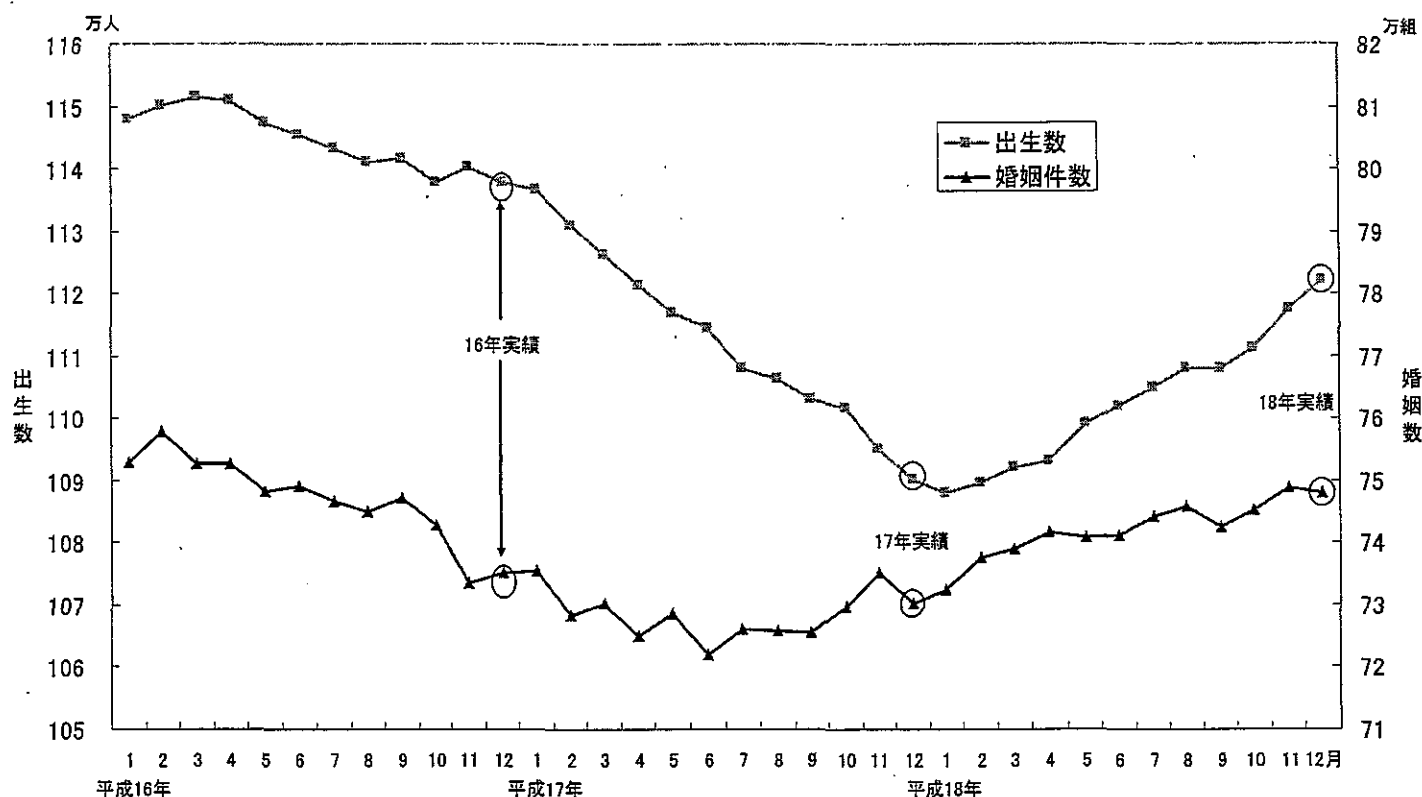
$$\text{過去1年間 出生・死亡・婚姻・離婚率} = \frac{\text{その月を含む過去1年間の件数(出生・死亡・婚姻・離婚)}}{\text{その月を含む過去1年間の中央人口}} \times 1,000$$

$$\text{自然増加率} = \frac{\text{その月を含む過去1年間の出生数} - \text{その月を含む過去1年間の死亡数}}{\text{その月を含む過去1年間の中央人口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{その月を含む過去1年間の死産数}}{\text{その月を含む過去1年間の出産(出生+死産)数}} \times 1,000$$

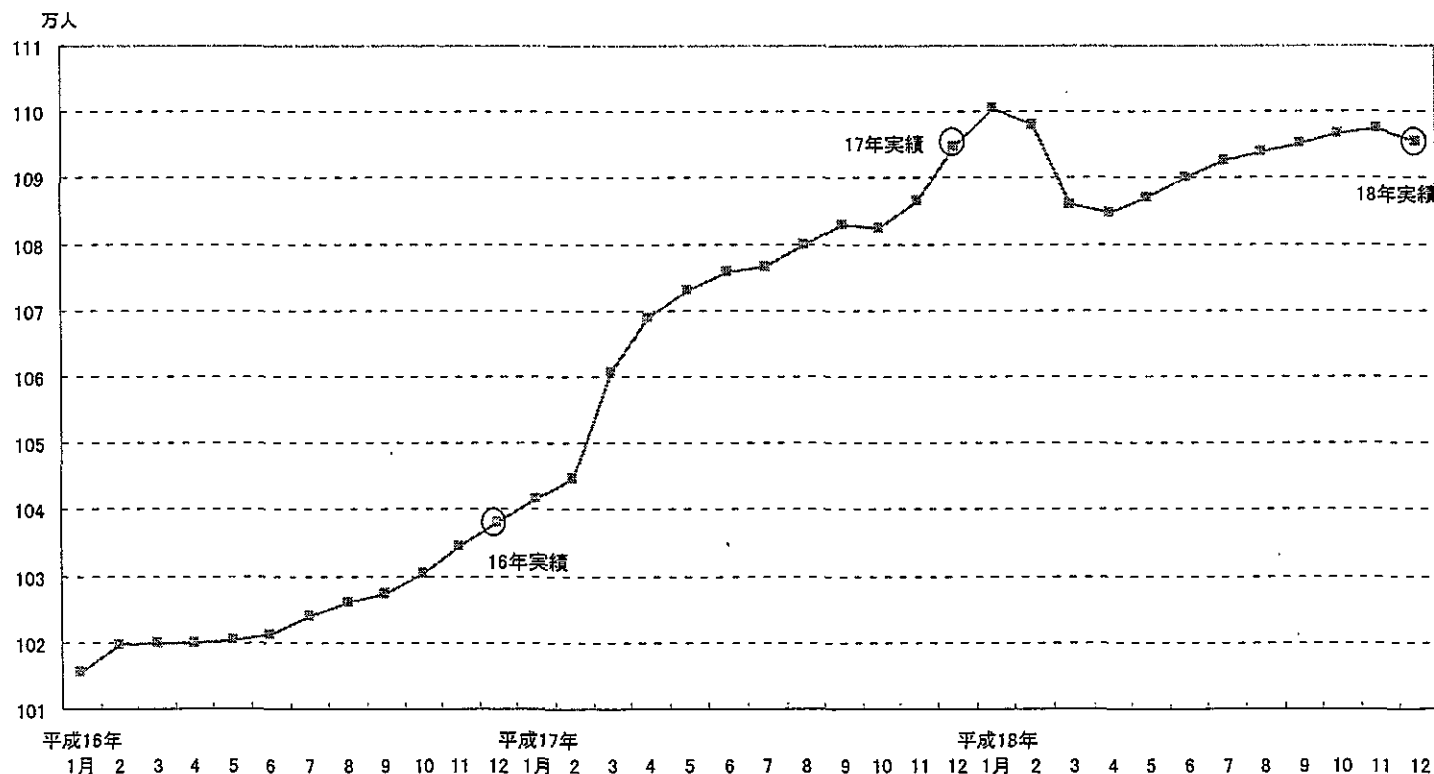
注：18.1～18.12の中央人口は、平成18年7月1日現在人口を用いた。

人口動態統計速報における当月を含む過去1年間(12ヶ月)の出生数・婚姻数の推移



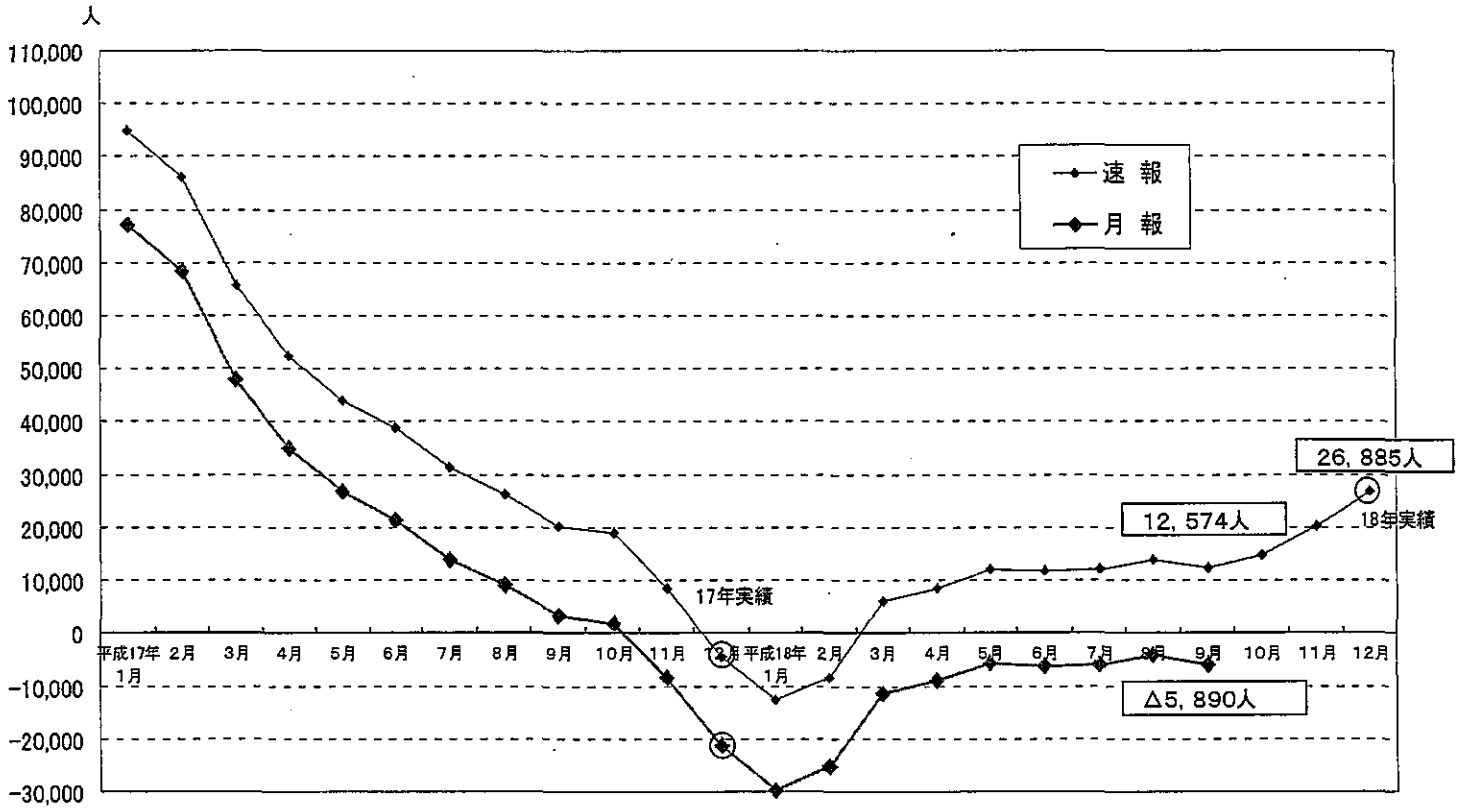
注:日本における日本人のほか、日本における外国人、外国における日本人等を含む数値である。  
このため、日本における日本人にかかる分(見込み数)については、出生数約2万9千人程度、婚姻数約1万7千組程度減じて観察する必要がある。

人口動態統計速報における当月を含む過去1年間の死亡数の推移

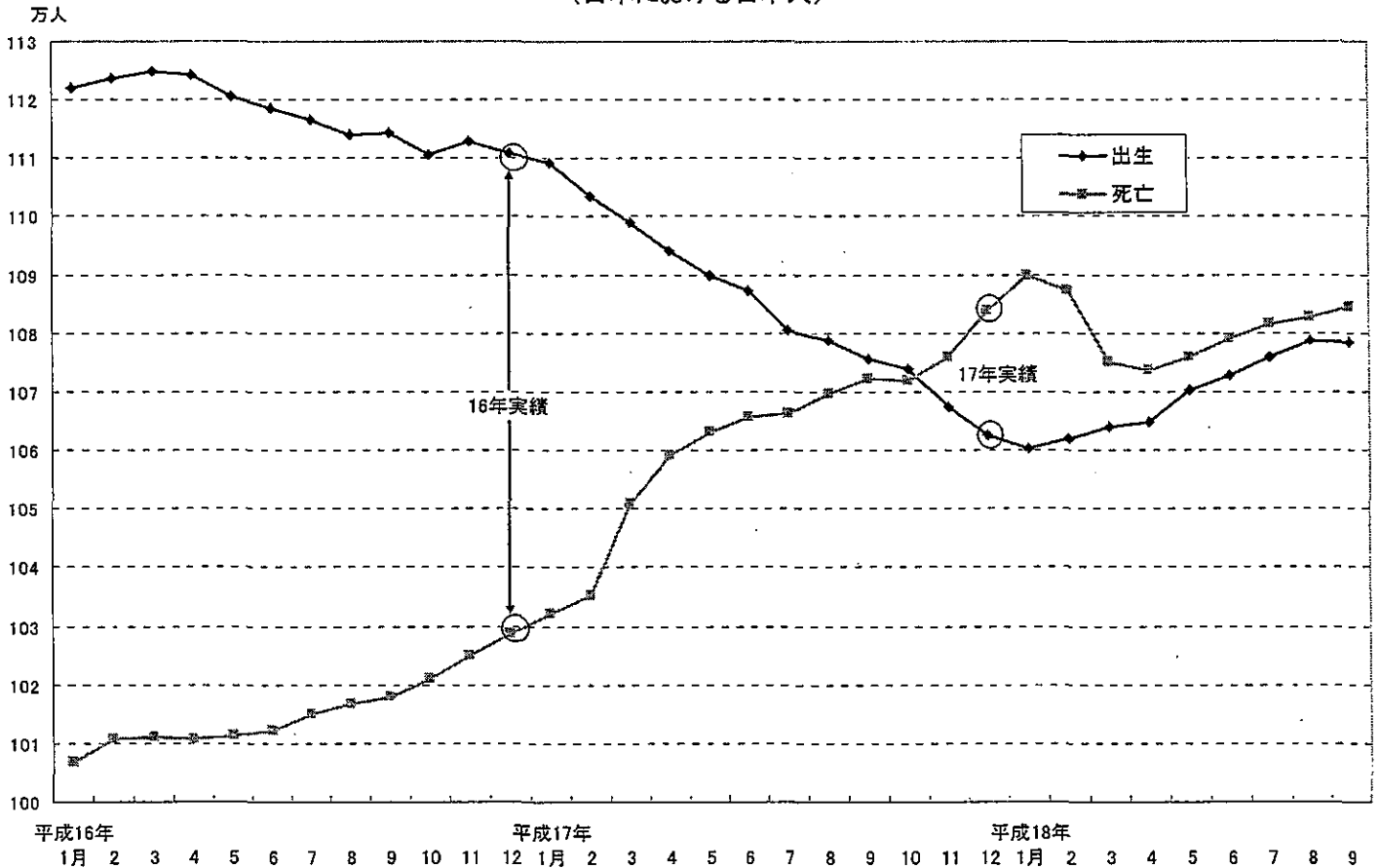


注:日本における日本人のほか、日本における外国人、外国における日本人等を含む数値である。  
このため、日本における日本人にかかる分(見込み数)については、約1万1千人程度減じて観察する必要がある。

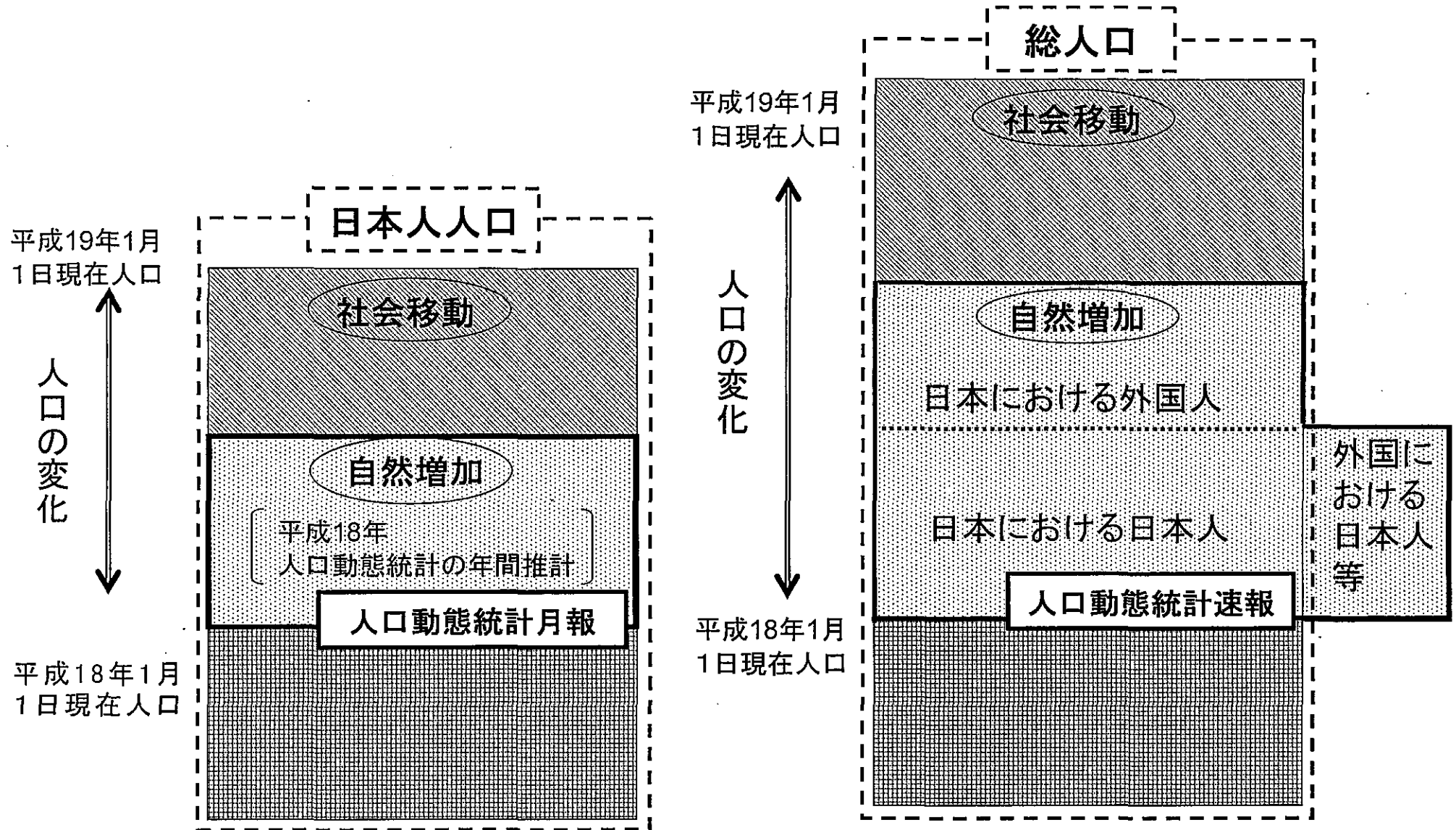
人口動態統計における「当月を含む過去1年間の自然増加数」の推移  
 (月報は日本における日本人、速報は日本における外国人、外国における日本人等を含むものである。)



人口動態統計月報(概数)における当月を含む過去1年間の出生数・死亡数の推移  
 (日本における日本人)



# 平成19年1月1日現在人口と人口動態統計の関係



## 出生数の動向と合計特殊出生率の動向の関係

- 出生数は次の3つの要素から計算されるため、その動向は、「合計特殊出生率」の動向のほか、「女子人口（15～49歳）」と「（15～49歳女子人口の）年齢構成の違い」の動向にもよる。

$$\begin{array}{ccccccc}
 \text{出生数} & = & \text{女子人口} & \times & \frac{\text{(期間) 合計特殊出生率}}{35} & \times & \text{(15～49歳女子人口の)} \\
 & & \text{(15～49歳)} & & & & \text{年齢構成の違い} \\
 & & \uparrow & & \uparrow & & \uparrow \\
 & & \text{(15～49歳のどの年齢の女子の人数も} & & & & \text{(出生数} \div \text{見込まれる出生数)} \\
 & & \text{同じとした場合に見込まれる出生数)} & & & & 
 \end{array}$$

\* (期間) 合計特殊出生率は15～49歳までの35歳の年齢別出生率を加えたものであるため、女子人口（15～49歳）を乗じて出生数となるよう35で除している。

その年の女子の年齢別出生率の合計である「合計特殊出生率」は、「その年の女子人口（15～49歳）について、仮にどの年齢の女子の人数も同じとした場合のその年の出生率」である。

$$\text{出生数} = \frac{\text{女子人口 (15～49歳)}}{\text{35}} \times \frac{\text{合計特殊出生率}}{\text{35}} \times \text{年齢構成の違い (15～49歳)}$$

平成16年	111.1万人	= 2,777万人	×	$\frac{1.29}{35}$	×	1.086
	↓△4.3%	↓△1.4%		↓△2.2%		↓△0.8%
平成17年	106.3万人	= 2,738万人	×	$\frac{1.26}{35}$	×	1.078

※合計特殊出生率が変わらなかった場合、出生数は△2.1%であったと見込まれる。

### 「女子人口(15～49歳)」と「年齢構成の違い」の動向

